

令和6年度 事業報告

はじめに

横浜港振興協会は、「ミナト町ヨコハマの振興・発展に向けた諸事業を推進する」という役割を担うために、令和6年度も役職員一丸となって横浜港の港湾振興策を次のとおり実施しました。

市民を対象とした「横浜港見学会」「横浜港出前講座」等の各種事業を推進し、市民の方々に横浜港を理解して頂き、港がより身近なものとして愛着を感じていただけるよう取り組みました。

また、客船の寄港促進を図るため誘致活動を推進し、客船寄港時の歓迎行事を実施するとともに、客船等の配船調整業務や、岸壁の運営業務を行いました。

横浜港の施設の管理運営業務としては、大さん橋国際客船ターミナル、八景島マリーナ・駐車場の安全・安心な施設運営に取り組みました。

今後も、当協会の役割を果たすため、より効率的で効果的な業務執行に努めてまいります。

1 会勢（令和7年3月31日現在）

(1) 会員総数 503 社 814 口

令和6年度増減数

2 口増（入会 7 社 11 口、退会 7 社 7 口、口数変更 1 社 2 口減）

(2) 役員

会長	1 人	
副会長	4 人	
専務理事	1 人	
常務理事	1 人	
理事	46 人	
監事	2 人	（以上 計 55 人）

(3) 職員

事務局長	1 人	
本部	10 人	
大さん橋客船ターミナル事務所	12 人	
八景島事務所	2 人	（以上 計 25 人）

2 会議等の開催

(1) 理事会・総会

- ア 第 208 回理事会 令和 6 年 5 月 24 日
第 73 回通常総会提出議案、新規入会会員について承認されました。
- イ 第 73 回通常総会 令和 6 年 5 月 24 日
令和 5 年度事業報告・決算、令和 6 年度事業計画・予算、役員の補充選任、役員報酬
規程の改訂について承認されました。
- ウ 第 209 回理事会 令和 6 年 5 月 24 日
副会長の選任について承認されました。
- エ 第 210 回理事会 令和 7 年 3 月 24 日
令和 7 年度事業計画、予算、減価償却引当資産の一部取崩しについて承認されました。

(2) 会員交流会の開催

会員、役員、総代、個人会員等の交流を図るため交流会を開催しました。

- 開催日 令和 6 年 10 月 30 日
- 場所 ロイヤルホールヨコハマ
- 出席者 約 300 人
- 内容 講演 トークショー形式（アレックス・ラミレス氏）
講演タイトル「Ramichan Winning attitude（ラミちゃんの勝利に対する姿勢）」
ダンスパフォーマンス：LUCA&Blue Spirits Latina
歌唱パフォーマンス：Rain

(3) 令和 6 年度新入社員等研修会

会員店社の新入社員等を対象に、横浜港に関する 2 つの講義「横浜港の概要（講師：横浜市港湾局職員）」、「横浜開港と交通の発達（講師：横浜開港資料館職員）」及び貸切バスでの大黒ふ頭等の見学、船による海上からの港内見学、参加者交流会を行いました。

- 開催日 令和 6 年 6 月 5 日
- 場所 波止場会館等
- 出席者 60 人

(4) その他（横浜経済 7 団体共催事業）

- 令和 6 年叙勲・大臣表彰・神奈川県県民功労者表彰・横浜文化賞受賞祝賀会
開催日 令和 6 年 12 月 3 日

3 港湾関係道路網の整備促進活動の推進

横浜港と背後圏とのアクセスを強化し、物流円滑化を図るため、横浜市幹線道路網建設促進協議会の構成団体の一員として、横浜環状道路の整備促進等を働きかけました。

4 船舶・貨物誘致活動の推進

(1) 横浜港客船誘致事業

客船誘致に必要な情報を国内のほか国外からも収集し、受入環境の強化に努めました。横浜港を取り巻く様々な課題が関係者間での共通認識となるよう、定期的に横浜港客船連絡会議を行い、その事務局を当協会が担いました。

(2) 客船受入事業

客船は、「にっぽん丸」「MSC ベリッシマ」「飛鳥Ⅱ」「ウエステルダム」「アルタニア」「セレブリティ・ミレニアム」「ダイヤモンド・プリンセス」「リビエラ」「オイローパ」「パシフィック・ワールド」「シルバー・ミュージ」「セレナーデ・オブ・ザ・シーズ」「ヘリテージ・アドベンチャラー」「ロイヤル・プリンセス」「ナショナル・ジオグラフィック・レゾリューション」「コーラル・ジオグラファー」「シーボーン・オデッセイ」「ノルウェー・スピリット」「シルバー・ミュージ」「ノールダム」「レガッタ」「三井オーシャンフジ」が入港しました。

令和6年1月～12月の客船寄港実績は計147回で、うち大さん橋95回、新港ふ頭38回、大黒ふ頭14回でした。

(3) 横浜港初入港船歓迎サービス業務

横浜港の振興宣伝策のひとつとして、横浜港に初入港する船舶に横浜港オリジナルの記念楯などの贈呈や初入港歓迎セレモニーを実施しました。

楯の贈呈数 60 件、押絵の贈呈数 10 件

初入港歓迎セレモニーの実施

コンテナ船「かこ」 令和7年1月17日 南本牧ふ頭

5 地域連携事業

前年に続き、地域連携事業を推進するための活動を行いました。

(1) 神奈川大学との包括連携協定に基づく取組

持続可能な横浜港の構築に向け、お互いが抱える諸課題の解決に共同で取り組み、ミナト町ヨコハマの更なる発展に寄与するとともに、「港湾の実業」を通して次世代人材を育成するため、令和4年1月に、神奈川大学と締結した包括連携協定に基づき、具体的な取組みを行いました。

八景島アクティブラーニング研修・国際日本学部島川ゼミ生（令和6年4月3日）

出前講座「空飛ぶ車（Sky Drive）」・国際日本学部平山ゼミ（令和6年10月25日）

SDGs アワードパネル展（大さん橋ロビー）（令和7年3月17日～）

横浜港見学会・法学部小山ゼミ（令和6年7月2日）、法学部清水ゼミ

（令和6年9月11日）ほか

横浜港ポートガイド応募（令和6年8月1日～20日）・国際日本学部学生1人（中国語）、国際日本学部学生1人（英語）

(2) 「BAYWALK YOKOHAMA ウォーキング&ジョギングマップ」の配布

臨海部の賑わい創出と回遊性の促進を目的として、「BAYWALK YOKOHAMA ウォーキング&ジョギングマップ」を市内観光案内所、周辺ホテルや商業施設に配布しました。

(3) ウエルネスウォーキングの実施

「BAYWALK YOKOHAMA」コースと八景島周辺を巡るウエルネスウォーキングイベントを、年間を通して4回実施しました。

「BAYWALK YOKOHAMA」ウエルネスウォーキング（令和6年4月6日、12月8日）

八景島ウエルネスウォーキング（令和6年6月27日、令和7年3月29日）

(4) 「サロン・ド・ヨコハマ」の開催

横浜発着のクルーズ客の多くは、東京等で観光・宿泊を行うという課題があります。これを解決する試みとして、実際にクルーズの常連のお客様に横浜のホテルに足を運んでもらい、客室見学やレストランを利用していただき、横浜観光やクルーズの前泊・後泊など横浜のホテル利用に繋げる「サロン・ド・ヨコハマ」を10回開催しました。

ハイアットリージェンシー横浜（令和6年7月12日、10月3日）

ヒルトン横浜（令和6年7月22日、11月8日、11月21日）

インターコンチネンタル PIER 8（令和6年9月25日、令和7年1月6日）

横浜ベイホテル東急（令和6年10月17日、10月23日）

カハラホテル横浜（令和6年11月22日）

(5) 「横浜みなと周遊バス」の運行

訪日外国人船客への対応と、臨海部での回遊性の向上のため、客船の乗組員を対象に、横浜を代表する3つのエリア（伊勢佐木町、元町、中華街）を巡る「横浜みなと周遊バス」を運行しました。

運行日時 令和6年4月9日（月・祝）11:00～16:30

運行台数 5台（30分間隔で運行）

対象船舶 パシフィック・ワールド（総トン数 77,441 トン、船籍 パナマ）

運行コース パシフィック・ワールド～元町～横浜中華街～伊勢佐木町～
パシフィック・ワールド

(6) クルーズ船の情報提供

近隣商店街や鉄道事業者に対して、クルーズ船の情報提供や連携活動を行いました。

(7) 横浜ベイブリッジ展望施設「スカイウォーク」の運営

「スカイウォーク」を利用者が安全かつ快適に使用できるよう適切な運営や施設を活用した広報活動を行いました。

6 市民と港を結ぶ事業の推進

(1) 共催事業

ア 横浜港見学会の実施

市民に広く横浜港を理解し、親しんでもらうため、港湾局、横浜港埠頭株式会社、横浜川崎国際港湾株式会社と連携し、横浜港内の周遊やコンテナターミナルなどの港湾施設の見学会を実施しました。

コース及び参加人数等

(ア) マリーナルージュ乗船コース 72回 2,507人

(イ) 港湾施設見学コース 24回 581人

(ウ) マリーナルージュ乗船・港湾施設見学コース 47回 1,009人

イ 横浜港出前講座の開催

横浜港や港に関係することなどをテーマに、講師を派遣し講座を開設することにより、市民の横浜港に対する理解や関心を高めるとともに、港との結びつきを強化するため、出前講座を行いました。

実施回数 10回

受講者数 398人

ウ 区民まつりへの出店

区民まつりのイベントに出店し、横浜港オリジナルグッズの販売や港に関するゲーム等を実施することにより、市民と港を結び付ける活動を行いました。

ふるさと港北ふれあい祭り（令和6年11月30日 横浜アリーナ）

エ 横浜港客船フォトコンテスト2024の開催

横浜港やクルーズ客船の魅力を多くの方に知っていただくため、港湾局と連携し横浜港に寄港する客船を被写体としたフォトコンテストを開催しました。

応募期間 令和6年9月4日～令和7年1月17日

テーマ 横浜港とクルーズ客船

応募総数 117作品

入賞数 8作品

(2) 実行委員会の事務局として実施した事業

ア 第41回横浜港カッターレース

主催 横浜港カッターレース実行委員会

開催日 令和6年5月19日

場所 山下公園前面海域及び公園内

参加チーム 134チーム（一般113チーム、女子17チーム、小学生4チーム）

イ みなと祭港湾関連行事の開催

主催 みなと祭行事港湾実行委員会

(ア) 優良海事関係者表彰式

横浜港において永年精励勤務した海事関係者の方々の功績をたたえ、感謝の意を込めて横浜市長より表彰しました。

開催日 令和6年7月31日

場所 横浜港大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋ホール

被表彰者 港湾エンジニア38人、船員2人

(イ) 小学生のための港内見学会

水上バス「シーバス」の乗船と港湾施設の見学を行う「小学生のための港内見学会」を2日間開催しました。

①開催日 令和6年7月25日

行程 港内見学～出田町ふ頭見学(輸入青果、冷蔵倉庫の見学)

参加者 74人

②開催日 令和6年7月29日

行程 港内見学～日産自動車本牧専用ふ頭見学(自動車専用船への車両搬出作業等の見学)

参加者 61人

ウ 横浜港国際船員スポーツ大会

主催 横浜港国際船員スポーツ大会実行委員会

(ア) ソフトボール大会

開催日 令和6年7月20日

場所 大黒ふ頭中央緑地運動施設第一・第二グラウンド

参加者 港湾関連企業及び横浜市 6社

(イ) 各種競技大会(ビリヤード、卓球)

開催日 令和6年10月21日～24日

場所 ユナイテッド・シーメンズ・サービス

参加者 11か国 123人(9隻)

7 横浜スパークリングトワイライト関連イベントの実施

首都圏最大規模の打上げ日数でさらなる賑わいの創出や経済活性化を目的に、日中開催する既存イベントと連携した短時間の花火打上げ(横浜スパークリングトワイライト2024)を実行委員会の構成団体の一員として実施しました。

開催日 令和6年4月から令和7年3月まで(27日間)

内容 新港ふ頭、大さん橋、山下ふ頭から5分間花火打上げ

(10月12日は10分、1月1日は3分)

打上げ玉数150発(10月12日は350発)

8 横浜港の広報宣伝活動の推進

(1) 各種刊行物の発行

ア 広報誌「よこはま港」の発行

第157号(令和6年4月1日発行) 1,300部

第158号(令和6年7月1日発行) 1,300部

第159号(令和6年10月1日発行) 1,300部

第160号(令和7年1月1日発行) 1,500部

イ 業務用参考資料の発行

ポートオブヨコハマ 2025-2026	2,500 部
横浜港便覧 2025-2026	3,000 部

ウ 市民向けカレンダー等の制作、販売

横浜港カレンダー2025	2,000 部
横浜港客船カレンダー付ポスター2025	4,000 部

(2) ポートガイド事業

海外からの横浜港訪問客に対する通訳や港内案内、刊行物等の翻訳、イベント司会等のサービス提供を行いました。

また、市民向けの横浜港見学会や県外中学生による横浜港見学「海の学習」のガイドも行いました。

新規ポートガイドとして、英語 3 人、中国語 3 人を選考し、新たに委嘱しました。

出勤人数 11 人（英語 7 人、中国語 2 人、韓国語 2 人）

出勤件数 174 回

9 横浜港振興協会友の会（波止場クラブ）の運営

広く市民の方々に横浜港を知ってもらうため、友の会会員を引き続き募集しました。

会員総数 75 人（令和 7 年 3 月 31 日現在）

令和 6 年度入会 9 人、退会 9 人

10 横浜港オリジナル記念品等の制作、販売

協会オリジナルグッズの製作、刊行物の販売をしました。新商品として、横浜港オリジナルサンリオグッズの製作販売をし、販売数の多いミニタオル、エコバック等の追加制作を行いました。

11 協賛・後援・協力事業等

横浜港の振興・発展に寄与する行事について、協賛または後援等を行いました。

- (1) “初音ミク Happy 16th Birthday”『Music & Fire Works』- Time Capsule -
（“初音ミク Happy 16th Birthday”『Music & Fire Works』実行委員会）
- (2) 第 72 回ザよこはまパレード（国際仮装行列）（国際仮装行列実行委員会）
- (3) 第 2 回横浜国際映画祭（横浜国際映画祭実行委員会）
- (4) 2024 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会
（世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会）
- (5) ベルギーウィークエンド 2024 横浜（ベルギーウィークエンド実行委員会）
- (6) 第 41 回横浜港カッターレース（横浜港カッターレース実行委員会）
- (7) ハマフェス Y165（横浜セントラルタウンフェスティバル実行委員会）
- (8) GREENROOM FESTIVAL'24（グリーンルームフェスティバル実行委員会）
- (9) 横浜開港 165 周年みなと祭港湾関連行事（みなと祭行事港湾実行委員会）

- (10) 第 41 回よこはまファミリー写生大会（横浜市 P T A 連絡協議会）
- (11) ヨコハマ・フットボール映画祭 2024（ヨコハマ・フットボール映画祭実行委員会）
- (12) 横浜スパークリングトワイライト 2024（横浜スパークリングトワイライト実行委員会）
- (13) 令和 6 年「海の月間」行事（「海の月間」横浜地区実行委員会）
- (14) 令和 6 年度海洋都市横浜うみ協議会（海洋都市横浜うみ協議会）
- (15) 第 37 回横浜港ボート天国（横浜港ボート天国推進連絡協議会）
- (16) 2024 年度横浜港国際船員スポーツ大会（横浜港国際船員スポーツ大会実行委員会）
- (17) 第 15 回みなとみらい大盆踊り（みなとみらい大盆踊り実行委員会）
- (18) たまくすの木のまわりにバリアフリーデッキをつくりたい！（横浜開港資料館）
- (19) Local Green Festival' 24（ローカルグリーンフェスティバル実行委員会）
- (20) 東京湾大感謝祭 2024（東京湾大感謝祭実行委員会）
- (21) ワールドフェスタ・ヨコハマ 2024（ワールドフェスタ・ヨコハマ実行委員会）
- (22) ピンクリボンライトアップ 2024 in かながわ（ピンクリボンかながわ）
- (23) 企画展「横浜ベイブリッジと鶴見つばさ橋」（公益財団法人帆船日本丸記念財団）
- (24) YOKOHAMA GOGO DOG FES 2024 秋（びあ株式会社）
- (25) 第 6 回サーフ シティー マーケット プレイス バイ ザ シー 第 29 回クラウン ピクニック（ムーンオブジャパン株式会社）
- (26) 「BAY WALK MARKET 2024」（BAY WALK MARKET 2024 実行委員会）
- (27) 「MYSTERY OF TUTANKHAMEN 体感型古代エジプト展」（合同会社ツタンカーメンプロジェクト）
- (28) A. P. モラー・マースク 日本寄港 100 周年記念 絵本制作事業（マースク A S）
- (29) 第 35 回子ども会書道展（横浜市子ども会連絡協議会）
- (30) JAF モータースポーツジャパン 2025 in 横浜（一般社団法人日本自動車連盟）
- (31) ジャパンインターナショナルボートショー 2025（一般社団法人日本マリン事業協会）
- (32) 第四回シドモア桜祭り（シドモア桜の会 横浜）

（順不同）

12 横浜港の施設の管理運営等

(1) 大さん橋国際客船ターミナル指定管理業務

指定管理者として大さん橋ターミナルの管理運営をしました。来場者は 3,207,786 人となりました。また、以下の実績のとおり、客船の受入れを始めとしたインナーハーバーの更なる活力と賑わいの創出を実現し、安心安全な施設づくりのために各訓練、講習、研修会なども実施しました。

ア 客船の入出港に関する主な管理運営業務

入港隻数（暦年） 95 回

イ ターミナルの来場者数

3,207,786 人

ウ ターミナルの駐車場利用台数

151,850 台

- エ 大さん橋ホールの営業稼働日数
219 日間
- オ 撮影の利用件数
静止画 2,315 件、動画 113 件
- カ 主な訓練、講習、研修会
全体防災訓練（地震・津波避難、起震車体験）
全体防災訓練（火災、消火訓練）
館内消防設備点検（年 6 回）
AED 普通救命講習会（年 2 回）
護身術訓練
コンプライアンス研修
屋内消火栓取扱い訓練
大規模イベント開催時における事故防止等講習会
接客マナー研修
衛生管理研修（感染症対策、ゴミ分別勉強会）
自衛消防隊 消防操法技術訓練会
サービス介助基礎研修（障がい者対応・接客についての講習）
カスタマーハラスメント対策セミナー
ハラスメント講習
個人情報取り扱い研修
- キ 主な自主事業
客船見送りイベント（35 回）
大さん橋ターミナル館内見学ツアー（15 回/117 人参加）
横浜市内中学校職場体験学習プログラム（6 校/22 人参加）
BAYWALK OSANBASHI～横浜を歩こう～（5 月 18 日）
芝生メッセージ（6 月 29 日～7 月 21 日）
大さん橋フィッシングチャレンジ（7 月 7 日）
スマートフェスティバル花火観覧会場（8 月 5 日）
大さん橋クジラキャンプ（8 月 17 日）
ライブペイント（10 月 12 日）
横浜港フォトジェニックイルミネーション（11 月 1 日～2 月 28 日）
インスタグラムキャンペーン（11 月 2 日～12 月 10 日）
大さん橋マルシェ（11 月 9 日、10 日）
Osanbashi Yokohama Night Aquarium（プロジェクションマッピング）（11 月 29 日～）
客船講演会と夜景クルーズ（12 月 4 日、5 日）
新田開発の歴史を学ぶ運河クルーズ（12 月 19 日）
横浜春節祭ランタンオブジェの設置（1 月 15 日～2 月 28 日）
大さん橋インスタグラム展示会（1 月 29 日～2 月 9 日）
大さん橋凧揚げチャレンジ 2025（2 月 23 日）
大さん橋桜まつり（3 月 14 日～4 月 6 日）
大さん橋ホール内覧会（3 月 27 日）

(2) 大さん橋岸壁の安全管理業務

大さん橋ふ頭は外航客船が入出港を行う際に SOLAS 条約（海上人命安全条約）の対象となる岸壁であるため、埠頭保安管理者（横浜市港湾局）が定める規定に基づき、24 時間 365 日、岸壁に出入りする車両と人の管理を実施しました。

(3) 配船業務及び客船等岸壁受入業務

横浜市から委託を受け、客船等の配船調整業務や大さん橋ふ頭など客船等が着く岸壁の運営業務を実施しました。

(4) 八景島マリーナ等の運営

ア 八景島マリーナの運営事業

八景島マリーナの運営業務を横浜市から受託し、安全かつ良好な状態で管理しました。また、大学ヨット部関連事業のほか、市民を対象にしたレンタルヨット及びヨットスクール事業、体験教室を実施しました。

(ア) 通年事業としてマリーナの管理運営を実施

毎日オープン（年末年始を除く）

業務内容：クラブハウスの運営、マリーナ海上業務、施設の点検・補修業務、各種連絡調整業務等

(イ) 大学ヨット部活動

大学数	出艇日数	出艇数
9 大学	143 日	3,085 艇

(ウ) レンタルヨット

区分	会員人数	利用回数
シーズンレンタル会員	9 人	178 回
レンタル会員	64 人	44 回

(エ) ヨットスクール

区分	開催日数	受講者数
技術習得コース	14 日	延べ77人
ジュニア特別コース	5 日	延べ11人
無料体験コース	3 日	延べ28人

(オ) 体験教室

区分	開催日数	受講者数
クジラキャンプ	4 日	延べ47人
指導者養成講習会	2 日	延べ37人
神奈川大学ゼミ研修	1 日	延べ8人

イ 指定管理業務の一部の実施

八景島指定管理業務の一部を受託し、指定管理者とともにイベントを開催補助及び島内の管理を実施しました。

(ア) 工事車両、イベント広場使用車両等の先導業務

(イ) ゆうなみ橋オイルフェンス（ブイ）監視業務

(ウ) 八景島島内巡回監視業務

(参考) 八景島来島者数：2,829,684 人（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

ウ 八景島駐車場の運営事業

周辺の交通対策を行う中、八景島駐車場の管理運営を実施しました。

令和 6 年度は駐車場周辺の工事車両が減り、八景島の来島者がファミリーからアニメ・アイドルのファン層へ移行する中、電車利用が増えたこともあり、各駐車場は平日・土日祝日を通して利用数が減りました。

令和 5 年度比較は減少となりましたが、令和 4 年以前との比較では好調を維持出来ています。

区分	利用実績		前年対比
	令和 5 年度	令和 6 年度	
B 駐車場	56,430 台	50,943 台	-5,487 台
C 駐車場	67,856 台	59,814 台	- 8,042 台
D 駐車場	759 台	437 台	-322 台
合計	125,045 台	111,194 台	-13,851 台

13 令和 6 年度新規入会会員一覧

(店社名)	(口数)
株式会社コボリ	1 口
ヒルトン横浜	1 口
新港ふ頭客船ターミナル株式会社	1 口
ノブレス株式会社	1 口
株式会社華正樓	1 口
神奈川トヨタ自動車株式会社	5 口
TANOJI 株式会社	1 口

14 「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024 特別賞」の受賞

日本外航客船協会主催の「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024 特別賞」に当協会ははじめ5団体が選定され、昨年12月、授賞式が東京・海運ビルで行われました。この賞は、その年に特にクルーズ振興や客船誘致活動に寄与した企業、自治体、団体などに贈られるもので、全国に80ほどある港湾振興協会の中では初めての受賞です。

当協会が継続的に実施している、クルーズ客、乗組員向け案内所“クルーズ・コンシェルジュデスク”、市内3つの商店街を結ぶ“みなと周遊バス”、横浜でのクルーズ前後泊を促進する“サロン・ド・ヨコハマ”などの取組みが評価されたことが受賞理由になりました。当協会では、今後も、今回の受賞を糧にクルーズ客、乗組員へのサービス向上に努めてまいります。